

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500162
法人名	社会福祉法人 はびねす福祉会
事業所名	グループホーム LOHAS・KOTI
所在地	愛媛県新居浜市船木甲2216-39
自己評価作成日	平成23年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然に囲まれて静かなところなので、のんびりと生活ができる。 猫の額ほどだが季節の野菜を育てたり、花などを育て、楽しんでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●職員と利用者でフラワーアレンジメントを楽しんだ際に「以前、お華を習いよったんよ」と話して下さり、とても喜ばれたことがきっかけで、その後も、お花を買って来て、毎月定期的にアレンジメントを楽しむ日を作っておられる。 ●入浴に気が向かない利用者のことを、仲良しの利用者の方に相談したところ「私が先にお風呂に入っておくから一緒に入るよ」と誘って下さり、お二人でお風呂に入ることもある。 ●朝食と昼食は、職員が交代で献立を立て、事業所で食事作りをされている。「献立の中に1品、煮物を入れる」ことや「だしや調味の素は使わない」こと等に気を配り、おいしい食事が作れるよう工夫をされている。
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

[記入方法]

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム LOHAS・KOTI

(ユニット名) 西の家

記入者(管理者)

氏 名 宇嶋 道恵

評価完了日 23 年 2 月 1 日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)	
			シンプルな理念であるが、奥が深く、一日一日理念に基づいた実践ができるよう努力している。	
			(外部評価)	
			開設時に理事長が「SAFTY(安全) RELAX(くつろぎ) HAPPY(幸福)」と事業所理念を作っておられるが、現在、管理者は、実践につなげていけるよう「利用者に寄り添ったケア」に向けて新しい理念を作ろうと考えておられた。さらに今後、地域密着型サービスの意義等も職員で話し合い、事業所が目指すことを示していかれてほしい。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)	
			近くのスーパーには毎日、食材を購入に行っている。 また、美容院やお菓子舗も利用している。 隣接の福祉施設の行事などにも参加している。 過疎地区であり急な坂の上に建っているため住民が立ち寄りにくい。	
			(外部評価)	
			事業所が所在する地域の高齢化のこともあり、地域との交流に難しさもあるようだが、自治会長の方が運営推進会議に参加してくださっている。秋祭りには、地域の太鼓台が駐車場に来てくれ、涙を流して喜ばれる利用者もおられたようだ。又、若い時に太鼓台の太鼓を叩いていたという利用者の方もおり、祭りの日、実際に太鼓を叩かせていただいた。2月から地域のボランティアの方がお琴や尺八、三味線を演奏に来てくれるようになり、利用者の中には、経験者もおられて楽しくひと時を過ごされた。近くの美容室に出かけたり、時には利用者のカットに来てくださっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			職員が現在勉強中なので地域の人々にまでは至っていない。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			回を増すごとに意見が出るようになり、職員に伝え、サービス向上に活かしている。 行事などが分かるように掲示板を掲げては？という意見があり、玄関に掲示板を設置した。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(外部評価)	
			自治会長、民生委員、利用者、ご家族、地域包括支援センターの担当者の方に参加をいただき事業所の会議室で会議を開催されており、行事報告や意見交換を行っておられる。入居の説明時には、ご家族に運営推進会議に出席いただけるよう話しておられるが、現在は、同じご家族のみの参加のようだ。	会議に参加しておられるご家族からは「他のご家族と顔合わせをして情報交換をしてみたい」との意見も出されている。管理者は「遠方に住むご家族や事情等、ご家族のご都合もあるだろうが、もっと声をかけていきたい」と話しておられた。いろいろな立場の方の参加を促し、事業所の取り組みやケアサービス、認知症について、多くの方に知ってもらえるよう取組みをすすめていかれてほしい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			現在はユニットの玄関の施錠をしている。 帰宅願望の強い利用者が数名おり、屋外へ出れば、崖や急な坂道があり、通行量の多い国道に通じているので利用者の安全を守る為、家族も理解していただいています。	
			(外部評価)	
			利用者は「お天気の良い時には庭に出たら気持ちがいいんだよ。ここは外でも屋根があるからね」と、居間からテラスを指して教えてくださった。「帰宅願望の強い利用者」の中には「おじいちゃんが気になる」とドアを揺らして出て行こうとする方もあり、「職員が目を離れた時の利用者の安全」等を考えて、日中、両ユニットとも出入り口は、施錠されている。夜間は、両ユニットの「夜勤職員の精神的負担を軽減」するために開放されている。	管理者は、全職員に口頭で身体拘束について話しをされているが、今後は「職員会議でも採り上げていきたい」と話しておられた。又、「新しい職員も多いので研修にも力を入れていきたい」と話しておられた。利用者の思いや意向を大切に、アセスメント等にも取り組みながら、利用者個々の「幸福」な暮らしのサポートに向けて、ケアの工夫を重ねていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 全職員ではないが研修会等で学んでいる。 身体的には入浴時に観察をするなどして、虐待の防止に努めている。 心理的には目に見えないので無意識な言動や行動があるかもわからない。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 全職員ではないが研修会などで学んでいるが、具体的な事例はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所前に利用者や家族に十分な説明をし理解していただいたうえで契約書を交わしている。また疑問点があればその都度説明をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族からの意見や要望は受け止め、利用者の意見や態度での要望には考察し、カンファレンスなどに反映させている。 (外部評価) ホームページから毎月の行事の予定が分かるようにされている。ご家族の来訪時や運営推進会議時に、意見等を聞き取るようにされている。ご家族からは「入居して本人が生きいきしてきた。顔つきがはっきりしてきた」等、サービス利用しての感想が聞けたり「本人ができることは何でもさせてください」「家族会があったらいいですね」等の提案や意見等もいただいている。	管理者は「ご家族の応援をいただきたい時もあるが、ご家族にもいろいろ都合があると思う」と話されていた。時には、ご家族と一緒に活動するような取り組みや、楽しい時間を一緒に過ごす機会等も作ってみてはどうだろうか。又、ご家族が知りたい情報の提供等にも工夫され、ご家族との関係をより深められて、利用者の暮らしをご家族とともに支える体制を作っていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			職員会などで話し合う機会を設けている。代表者は職員へアンケートをとり、対応している。	
			(外部評価)	
		避難訓練を実施する際、職員から避難訓練時に地域の方の参加をお願いしてはどうかという提案があり、訓練時には地域の方に声かけされた。「食後、空いた食器を利用者がご自分で下げることができるよう、テーブルにお盆を置いてはどうか」との提案も採り入れておられた。職員は、創作童話を読むと1時間くらい聞いてくださった利用者が多かったことから「今度は図書館で紙芝居等を借りて来て、利用者に楽しんでもらいたい」と話しておられた。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			努めているように思われる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			法人内外の研修が共に2ヶ月に1度あり、自発的に参加できるように呼びかけている。習得した技術やケアの方法など現場での実践に結び付けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			東予地区のグループホーム研修会に参加している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			本人の不安を傾聴し、少しでも取り除けるよう寄り添うように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け ながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の要望に応えるようにケアプランに盛り込んで、同意を 得ている。面会時や電話などで相談にも応じている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族 等が「その時」まず必要としている支援を見極 め、他のサービス利用も含めた対応に努めてい る	(自己評価) 本人・家族とは話し合い状況を観察しながら対応していくこと を説明している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いてい る	(自己評価) 残存能力を生かし、掃除や調理、洗濯物たたみなど、家事 全般にわたり、出来る利用者には一緒に手伝ってもらった り、教えてもらったり、共に食事をしたり、お茶を飲んだりして 共に楽しみ、支えあう関係作りを心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 帰宅願望や不安の強い利用者の家族に面会や外出を依頼 したり、ともに支援していくようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めてい る	(自己評価) ピアノの先生の自宅でのレッスンを継続できるよう支援してい る。 入所前に利用していた施設を訪問している。 (外部評価) 入居前から習っていたピアノの先生が送迎をしてくださり、2 週間に1回、ピアノの先生宅で習うことを続けておられる利用 者がいる。職員と利用者でフラワーアレンジメントを楽しんだ 際に「以前、お華を習いよったんよ」と話してくださり、とても 喜ばれたことがきっかけで、その後も、お花を買って来て、毎 月定期的のアレンジメントを楽しむ日を作っておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を気にかけてながら、一緒に過ごせるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 3ヶ月で退所された利用者さんと家族さんとは訪問したり、相談したりして支援した。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日のコミュニケーションの中で、その人の思いを聞くように、努めている。コミュニケーションの図れない利用者には本人本位に任せている。	
			(外部評価) 普段の会話の中から利用者の思いを汲み取ったり、行動やしぐさ等からも把握に努めておられる。インフルエンザの予防接種を実施する際の同意欄に、ご自分の名前を書く機会があり、字が得意な方やご自分の名前を書けない方、分からない方等、いろいろな段階を知ることができたようだ。現在、管理者は、職員個々にアセスメントシートに職員の気づきを記入するよう促しているところである。	ご本人の暮らしの希望や過ごし方の要望、又、できること・できそうなこと等についてもアセスメントを充実して、ご本人らしい暮らしが続けていけるよう、支援につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前の聞き取り調査である程度は把握できているが、本人にしか分からないことが沢山あるので、日頃のコミュニケーションの中で聞き取りながら把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活記録表や排泄記録表を記入し、表情など日々観察し、ひとりひとりの現状把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			家族や本人の意見を聞く一方、ケース会で話し合いをもち介護計画を作成している。	
			(外部評価)	
			利用者個々の担当職員が、介護計画を作成されている。月に2回、管理者とその日の勤務職員でカンファレンスしてモニタリングを行い、6ヶ月毎に計画の見直しを行うようになっている。介護計画書は、ご家族が面会に来られた時に見ていただき、ご意見をうかがったり、遠くに住むご家族には郵送をされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			個別の記録は介護計画をもとに記録している。きづきを重視し、職員間同士では情報を共有し、実践している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいるものの、なかなかニーズへの対応が遅れている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			ピアノのレッスンが継続できるよう馴染みの先生に送迎していただき、豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			利用者それぞれにかかりつけ医がいる。家族が受診介助をする場合は状況を報告している。	
			(外部評価)	
			受診は基本的にご家族が付き添うことになっており、ご家族のご都合や緊急時は、職員が同行されている。調査訪問時、定期受診から帰って来られた利用者にご家族に職員がお茶をお出しして、ご家族から受診時の様子を聞き取っておられる様子がうかがえた。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			毎日の健康状態を観察し、異常があれば看護師に相談している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			終末期を迎え家族と話し合った結果、自宅で家族と暮らすことを選択された。	
			(外部評価)	
			ご本人とご家族には入居時に「重度化した場合における対応の指針」に基づき、事業所でできる支援について説明されており、看取りに関しては「希望をお聞きしながら対応する」ことを説明しておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 開設前に全員自動体外式除細動器の使用方法を習得している。が、その後は訓練をしていない。 また応急手当の方法も勉強していない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災訓練は消防署の協力を得て行ったがその他の災害対策は行っていない。 隣接の施設からの協力はあると思う。地域へは自治会長様へ呼びかけている。 (外部評価) 11月に、昼間の火災想定避難訓練を消防署と防火設備業者立会いのもと実施された。職員は、水消火器を使った消火訓練や、利用者を駐車場まで避難させる訓練を行われた。訓練後、職員からは「足の悪い利用者が多いから車椅子がもっとあったらいいのでは」等の意見も出された。次回実施する夜間想定避難訓練には、自治会の方と併設施設の職員にも協力していただけるようお願いされていた。	
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重して対応するようにしている トイレ誘導の時は他の利用者にはわからないよう、さりげなく声掛けを行うように努めている。 (外部評価) 職員は、利用者にかかわる際には、まずご本人の目を見て、それから耳元で言葉かけするよう心がけておられる。調査訪問時、職員は、利用者の食べこぼしをそっと拭き取っておられる様子がうかがえた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の望みを尊重し、自己決定できるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) おおまかな一日の流れはあるが、その時々の利用者の状況 に応じて対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 普段着慣れた洋服を着たり、髪が伸びていると美容院へ 行ったりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みのものを献立に取り入れたり、買い物、下ごし らえ、盛り付け、食事、片付けなど一緒に行っている。 (外部評価) 朝食と昼食は、職員が交代で献立を立て、事業所で食事作りをさ れている。「献立の中に1品、煮物を入れる」ことや「だしや調味 料は使わない」こと等に気を配り、おいしい食事が作れるよう工夫 がされている。毎日近くのスーパーへ利用者と一緒に食材の買い出 しに行かれ、利用者が野菜を選んでくださることもある。調査訪問 時、利用者は台所で職員と一緒にジャガイモの皮をむいたり、エプ ロンを着けてテーブルを拭いてくださる様子がかがえた。又、自分 で下膳している方もおられた。職員は、食事前に利用者個々のお 箸が入ったお箸立てを持って「〇〇さんご自分のお箸を取ってくだ さいね」と、テーブルを回っておられ、利用者は、ご自分のお箸を 選んで取っておられた。昼食は、職員も利用者と同じものを楽しみ ながら食べておられる。夕食は、併設施設から食事が届くようにな っており、各ユニットでご飯を炊き、汁物を温め食事をされている。 3月のおひな祭りは、利用者の希望でちらし寿司と潮汁を作っ てお祝いをされた。月2回は、蒸しパンやどら焼き等、おやつを利用 者と手作りされている。お彼岸にはおはぎ、5月には利用者とし ばの葉を取りに行き「しばもち」を作る予定になっていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとり、食事・水分摂取量を毎日記録している。 水分摂取量の少ない利用者には摂りやすく工夫し促している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後、声かけと見守りで行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			一人ひとり排泄表記録表を作成している。 排泄パターンを把握し、時間を見ながらトイレの使用を促したり、誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(外部評価)	
			おむつを使用している方が入居された際、最初は、声かけしてトイレに誘う等、職員は様子を観察しながら支援された。ご本人は徐々に尿意を感じるようになられて、現在は、布パンツを使用してご自分でトイレに行かれるようになり、ご本人もとても喜ばれているようだ。調査訪問時に「ソロソロしか歩けんのよ」と言いながら、トイレに行く利用者の様子がみられた。全居室にトイレが付いており、トイレ内の手洗い場の水道からシャワーをセットして、失禁時等に使用することができるようになっている	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			本人の希望に沿うように、対応している。 毎日入浴される方、一日おきに入浴される方と様々です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(外部評価)	
			利用者のお好きな時間に入浴できるよう準備をされているが、現在は、午後2時くらいからの入浴を希望する方が多いようだ。入浴に気が向かない利用者のことを、仲良しの利用者の方に相談したところ「私が先にお風呂に入っておくから一緒に入ろう」と誘ってくださり、お二人でお風呂に入ることもある。	
			(自己評価)	
			一人ひとり状態を観ながら休息を促したり、日中の活動性を高め、気持ちよく就寝できるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの薬剤情報説明書を受診ごとに目を通し、確認している。 新たな薬の服用には症状変化に気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活の中で役割を設けたり、昔の懐かしいおやつと一緒に作ったりしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 中庭を散歩したり、毎日の買い物や、美容院へ行ったり、家族の支援で、外出や外食に出かけたりすることもある。 (外部評価) 日中温かい時間に、敷地内の庭を散歩されたり、併設施設の夕涼み会や餅つき等の行事に参加しておられる。マイントピアの紅葉見物やイチゴ狩り等、季節に応じた外出もされている。いちご狩りの際は、ご家族にも声をかけ、2家族が参加をされ、ともに楽しまれた。	 職員は、利用者からの希望を踏まえて「日帰りで温泉に出かけたり、図書館に行ったり、喫茶店でゆっくりお茶を飲んではいかが」等と考えておられ、今後、さらに外出の機会を増やしたいと話しておられた。地域行事に出かけたり、地域の方達とともに活動するような機会も積極的に作り、地域との関係作り等もすすめながら、利用者の暮らしを拡げていかれてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望に応じている。買い物をされる方もいます。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人自ら電話をかけたり、職員がかけたりしている。手紙のやり取りもできるようポストまで一緒に言っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			食堂、リビング、廊下、玄関、和室など季節感を味わえるものを飾ったり、自然の実りを飾ったりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(外部評価)	
			和室には、お雛様の段飾りが飾ってあり、食堂や居間には水仙の花が生けてあった。テレビが設置されている場所は仕切りがあり、テレビの音が周りに聞こえにくくなっており、又、ソファを配している場所は、照明の明るさを少し落として、落ち着いて過ごせる場所になっている。食事中、利用者は「ここは天井が高いし、明るくてきれいじゃろ」と、笑顔で話してくださった。居間からは、山の景色や庭が眺められ、又、テラスは、庭を散歩されちょっと一休みする場所としても好まれている。畑で利用者も一緒に野菜を育てたり収穫して楽しんでおられる。食事時間には、童謡等が流れていた。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			馴染みの家具や家族の写真、思い出の品などを置いている。 お仏壇を持ってこられている方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(外部評価)	
			居室には、仏壇やご家族の写真、お孫さんからプレゼントされたお人形を置いておられたり、パチンコ台を置いている利用者もいる。又、息子さんからもらったシクラメンの鉢植えを「お花が終わったけど葉が立派でしょ」と、大切そうに見せてくださった。雪が降った時期「この部屋から木に積もった雪を見て癒されました」と話してくだる方もいた。	
			(自己評価)	
			共有空間にはなるべくものを置かないようにしている。 生活役割を持って頂きできるだけ自立した生活が送れるよう支援している。	